

滋慶大学院新聞

発行所 学校法人 大阪滋慶学園
滋慶医療科学大学大学院
大阪市淀川区宮原1-2-8
TEL.06-6150-1336
https://graduate.juhs.ac.jp/

第 17 号
発行責任者 橋本 勝信
発行日 2023年(令和5年)9月30日

心臓移植と医療安全



大阪大学名誉教授
大阪警察病院院長

澤 芳樹氏

医療安全の話の前にまずは、1997年の臓器移植法施行後25年以上が経過し、一つの節目として、心臓移植を振り返らせていただきます。日本心臓移植研究会は、1983年に我が国での心臓移植の普及と発展のため発足し、これまで約40年間にわたり本邦における心臓移植医療の発展に貢献をしております。この間、1997年に臓器移植法が制定され、1999年に心臓移植が再開され、我が国における心臓移植の幕開けとなりましたが、心臓移植は年間10例にも及ばず、社会的に定着するには程遠い状況が続きました。ようやく2010年7月から改正臓器移植法が施行され、年間最大で80例程度の心臓移植が小児も含めて可能となり重症心不全患者への治療として少しずつ社会的に定着してきました。また、10年生存率89%と海外と比べても心臓移植の成績は格段に良好なことは、特筆すべきことです。

一方で、心臓移植を必要とする待機患者はStatus1だけで680名(2022年6月)に及びます。そのため移植待機期間は現在では平均約5年(2021年末)に及び、年々延長していく傾向にあり、多くの患者さんは補助人工心臓を装着して待機しています。現在、人工心臓装着患者の3年

生存率は90%近くと非常に良好なため、人工心臓装着が問題ない患者さんにおいては心臓移植へ到達することが可能となっています。しかし一方で、病態的に人工心臓装着が困難な患者さんや、人工心臓の合併症を認める患者さんに対しては、良好な補助人工心臓の治療成績による移植待機期間の延長のために、以前に比べてもかえって心臓移植への到達が困難となってしまっています。

今後、心臓移植でしか助けることが不可能な重症心不全患者さんに対して広く移植医療を提供していくために、ドナー数の増加を図る以外にも、心停止ドナーやマージナルドナーの利用といったドナー区分の拡大に加えて、公平感のあるドナーリソースの適切な配分システムの再検討、いわゆるallocation systemの変更などを、当研究会において幅広く検討しています。また、ドナー不足が深刻な海外の一部施設においては、ブタの心臓を用いた異種移植の臨床応用の検討段階にあります。

このようなリスクの高い重症心不全患者に対する移植医療をいかに完璧に実施するには、基盤に医療安全への日頃からの配慮と実践が重要であります。私たち心臓血管外科での取り組みを挙げます。まず、日常の常識的と思える医療行為を着実に実践する中で、どういうリスクがあるかを想定する。さらに想定外のリスクを想定する。ヒューマンエラーを回避するために常に二重チェックや日頃からのシミュレーション。さらに事故が起こってからの迅速な対応を心掛けており、そのような医療安全に対する万全な体制の中で、移植医療や人工心臓治療、再生医療などの最先端医療が初めて成り立つものと思います。

2022年度学位記授与式

2023年3月11日(土)に、大阪ガーデンパレスにて「2022年度学位記授与式」を挙行し、第11期生18名に学位記が授与されました。本式典の開催にあたり、十分な座席間隔を確保できる会場での実施、事前検温、マスク着用、必要時にはマスク交換、手指消毒等の感染防止対策を行った上で実施しました。

式典では、千原学長から式辞をいただき、その後、浮舟理事長からご祝辞が述べられ、さらに、大阪大学大学院医学系研究科 医学部長・研究科長の熊ノ郷淳様からご祝辞を頂戴しました。最後に、修了生代表として医療管理学研究科医療安全管理学修士となった日比麻有さんが謝辞をのべられ、指導教員や職員、職場のみなさんや家族にそれぞれ感謝を伝えました。

また、式典には、多くの祝電ならびにメッセージをいただき、修了生への励みとなりました。

みなさまの未来が輝くものとなるよう教職員、関係者一同、心よりお祈り申し上げます。



2023年度入学式

本学大学院の「2023年度入学式」が4月8日(土)、新大阪ワシントンホテルプラザで行われました。

はじめに、千原國宏学長から、「知識力を磨き、探究力を深め、真の人間力を習得することを目標とし、院生同士で切磋琢磨することで周りから思いを寄せられるリーダーに成長し、学位の取得まで精進されることを願います」と述べました。

続いて、学校法人大阪滋慶学園 浮舟邦彦理事長は、「医療の質と安全を研究していくプラットフォームの構築というのは、将来の大きな財産になっていくと思います」と語り、医療安全管理学の研究者、マネジメントのできるリーダーとなって、それぞれの職場で活躍するよう願いを込め、祝辞を述べました。

その後、大阪警察病院の澤芳樹院長(大阪大学大学院医学系研究科名誉教授)から「成功には『やり抜く力』『粘り強さ』が大事だと教えています。今日の志を大切に、世のため、人のため、道のため、歩んで頂きたいと心から祈念します」と激励のお言葉をいただきました。

最後に、入学生を代表して医療管理学研究科医療安全管理学専攻修士過程の梶野哲寛さんが、「共に学ぶ友とともに、先生方のご指導の下、医療の質と安全の向上に貢献すべく努力し続け、学業・研究に邁進することを誓います」と力強く宣誓しました。

式典終了後、11期生として今年3月に大学院を修了された日比麻有さん(薬剤師)が2年間の大学院生活についてプレゼンテーションを行いました。



入学生の皆様、多忙な日々が続きますが、その中の貴重な学びと研究の時間を有意義にお過ごしください。教職員一同応援しています。

新任教員紹介



梶原 修平先生

はじめまして。梶原修平と申します。この度、滋慶医療科学大学 大学院 医療管理学研究科 准教授に着任いたしました。私は、医学・生命科学分野の研究者として、国内外の研究機関で約20年間、免疫学・感染症学・ウイルス学などの分野の研究に従事してきました。特に、自己免疫疾患やアレルギーといった根治治療法が確立していない免疫疾患に関する研究に注力してきました。これらの疾患には、難治性疾患が多く含まれることから、効果的な治療法に加え、QOLの向上など、よりよい医療の提供が求められています。これまでの経験を生かし、教育と研究の両面で活動して参ります。教育においては学生の成長を支援し、研究においては新たな治療法の開発や臨床現場での問題解決に取り組んでいきます。皆様と協力し、滋慶医療科学大学の発展に寄与できるよう努めてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

在学生からのメッセージ

医療法人 峰至会 桜十字白金リハビリテーション病院
看護部長

横山 里美さん(12期生)

私は滋慶医療科学大学大学院が開校した時から、いつかトライしようと思っていました。当時は看護師長をしながら医療安全管理者として勤務していました。まだ子供たちが小学低学年でいたから、神奈川から大阪までの通学が厳しく諦めたことを良く覚えています。

今回入学するきっかけとなったのは、看護管理者教育課程セカンドレベル受講中で、終了目前を迎えた1月中旬のことでした。当時は翌年に大学院に進むという考えはなくサードレベルに進もうと考えていました。

17年も医療安全管理者をやって来ましたが、セカンドレベルの安全管理の講義を受けながら、安全関連の研修を多く受けて学んでいるのに、医療安全管理者として何にも形で残せていないことに悔しいと感じたのです。その時に大学院進学への思いが再燃し、その日のうちに事務局に受験相談のメールをしました。すぐに返信が来て翌週にはZoomで教授との面談をさせていただきました。ちょうどコロナ禍で2022年度の入学生は平日の授業は、Zoomでの授業が決まり、週1回土曜日のみ対面授業が決定したこと、認定看護管理者の受験資格も得ることが出来るという説明で

『今しかない!!』と思いすぐに申し込み、2月中旬に個別審査合格を経て後期第2次入試を受験しました。1月中旬に思い立ってから、ひと半月で合格までどおり着きました。毎週土曜日だけ新幹線通学していますが、過去には夜勤入りや夜勤明けを利用して大阪まで通った関東圏の学生もいたと聞き、やれない事はないなと思いました。

また入学式では新入生代表の宣誓を任せられました。今は仕事、家事、育児、授業、研究と毎日時間が足りないほど忙しく過ごしています。しかし長年の想いが形になって大学院に進学した今、当時進学を思いとどまった子供たちも、それぞれ大学4年生、高校3年生となり、同じ年に卒業となる予定なのですが、それがとても楽しみで頑張れる源です。大学院を卒業したら、まずは認定看護管理者の受験に臨むつもりです。医療経営管理学を履修しているのが法人内の医療経営にも関われば良いなと考えています。



医療法人 渡辺医学会 桜橋渡辺病院
医療安全管理者管理室

銚之原 寛代さん(12期生)

私は、医療現場で日々起こるインシデントやアクシデントに対し問題解決しながらも、同じような問題が発生することに、疑問を感じ医療安全管理分野の大学院への入学を決意しました。また医療安全管理者として、インシデントの対策に関する事や、業務内容の安全性の考え方について助言を求められますが、論理的に伝える必要があると感じました。

入学後は、多くの授業の中で、医療安全管理学以外にも、人間の特性を踏まえた安全心理学特論や人間工学特論、人と組織のあり方についての経営組織特論など、専門性の

高い先生方から学ぶことでキャリアアップできたと感じています。

仕事と学業を両立することの不安はありましたが、共に学んでいる同期生との出会いや、先生方には知的な刺激やアドバイスをいただきながら、充実した大学院生活を送っています。今後は、大学院で学んだ知識を生かし、安全の質の向上をめざし患者さんにとってよい看護を提供できるよう貢献していきたいと考えています。



修了生の活躍

常滑市病院事業管理者

野中 時代さん(6期生)

私は2023年4月1日から常滑市病院事業管理者として就任しました。それまでの1年間は、愛知県看護協会の訪問看護総合支援センター長として勤務しておりました。ここでは県内の訪問看護ステーションに対して第三者評価を試行事業として実施する様々な準備をしてきました。今年度が有料第三者評価です。そんな中で突然、常滑市民病院の事業管理者に就任したのは前任の方が不慮の事故で亡くなられ、常滑市の市長、副市長からの依頼という経緯です。

事務職の仕事は良くわからないため、事務長が市議会などには出席し、私の役を担ってくれるため、私は現場の経営改善の役割です。

就任時は入院患者が激減し、人件費は業収の7割を超えていたため、この問題解決に奔走しています。問題点の多い医師へのアプローチ、病床運用の方法と看護師の必要人数などの案を作り、経営会議に提出しています。

私の一日は朝から、外来部門、入院部門のラウンドを行い、全ての医療スタッフに声

をかけていきます。特に医師には感謝の言葉かけをし、提案された問題は即対応する事務局のER(救急部)を目指しています。これは信頼関係が成立し、こちらからのお願いも聞いてもらえるためです。

現在は、就任時点の入院患者数より40名~50名の増加があり、様々な効果が出てきています。来月8月、機能評価を受審するようになっており、一度も携わったことのない職員達にアドバイスしています。反対に彼らから学ぶものが多くあり、この受審は質向上に十分貢献できるとワクワクしています。74歳になり、かなりハードですが素直な職員達に救われています。ポジティブな意識変容をつぶさないよう、支援したいと思っています。



左:院長 野崎 裕広(のざき やすひろ)、右:事業管理者 野中 時代(のなか じだい)

社会福祉法人聖隷福祉事業団 宝塚エデンの園
副園長

松下 裕美さん(11期生)

急性期病院から2017年に介護付き有料老人ホームに異動し、副園長として複数の職場管理と園運営に携わるようになりました。入居者数や介護保険の認定者数、園運営に係る経費、設備投資計画など多くの会計情報を目にするようになりましたが、どのように管理すれば盤石な運営をしていけるのか疑問がいつもありました。組織管理や経営に関する知識を得たい、実践に役立てたいと考えたことが入学のきっかけです。仕事と学業の両立は時間と体力的な問題で難しいと感じましたが、コロナ禍で多くの講義がオンラインに変更されたことが「学ぶなら今しかない。」と私の背中を押してくれました。

講義では、経済学や経営学、会計管理学、財務管理学などの組織管理や経営に関する新

たな学びと、安全管理に関して事故防止や低減対策を考える上で必要な視点を安全心理学特論、人間工学特論などから深めることができました。

研究では、提供するサービスに対する対価を持たない非採算部門の業績をアメーバ経営の手法を用いて把握し、適用の検討を行いました。

指導教員の先生は、のんびり構える私に時に叱咤激励を下さりながら、丁寧なアドバイスとご指導をいただきました。現在は、研究生として指導教員の先生の下で研究の論文発表に向けて取り組んでいます。



学費の負担が軽減!

厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」の指定講座となりました(再指定手続き中)

専門実践教育訓練給付金制度は、働く人の主体的で中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とした雇用保険の給付制度で、2018年4月以降の本学入学者のうち所定の要件を満たす場合に給付金が支給されます。本学の入学前に手続きが必要ですので、住居所のハローワークにご相談ください。

【給付額】



順調に単位を取得し2年間で修了した場合に限りです。

【支給対象者の要件】

雇用保険の被保険者として、支給要件期間が3年以上ある方、現在は雇用保険の被保険者ではないが、離職後1年以内でかつその前に支給要件期間が3年以上ある方。初めて教育訓練給付の支給を受ける場合は、支給要件期間は2年以上あればよい。過去に教育訓練給付金を受給した方などは要件を満たさない場合があります。

大学院事務局から

事務局への連絡はメールアドレス jim@juhs.ac.jp または 電話06-6150-1336へお願いいたします。
(火曜~金曜10時~21時、土曜10時~19時、日祝・月曜休)

オープンキャンパスのご案内

オープンキャンパスでは、オンライン並びに対面等にて本学の特徴や背景についての説明、カリキュラム、入試制度の案内のほか、講義の体験ができる模擬授業も実施しています。また、修了生によるメッセージもご覧いただけます。入学後の履修科目の選択方法や仕事との両立の仕方など、また、研究テーマについて個別に相談ができます。入学を検討されている方は是非オープンキャンパスにご参加ください。

オープンキャンパスの流れ

- | ① 全体説明 | ② 模擬授業 | ③ 修了生メッセージ | ④ 個別相談 |
|-------------------------------|----------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| 本学の特徴や医療安全管理学分野を学ぶ意義などを説明します。 | 実際の講義を通して、実践的な講義を体験してください。 | 入学動機や修士論文作成までの流れなどについて修了生が説明します。 | 仕事と学びの両立方法やカリキュラム、学修支援など、個別にご相談に応じます。 |

個別相談会・授業見学も随時行っております。
お申し込みは本学ホームページ、またはメール、電話でお願いします。

編集後記

7月27日、国連グテーレス事務総長が、「地球温暖化の時代は終わりました。地球沸騰化の時代が到来したのです」と訴えた。世界では、熱波による山火事が多発し、市民生活に大きな影響が出ています。また、COVID-19の終息時期はいつなのか。地球環境問題とパンデミックに私たちはどう立ち向かうべきなのでしょう。私たちがとるべき道は何か。考えていきたいと思っています。